

全国国立大学附属学校PTA連合会（全附P連）

PTA研修会 第7回全国大会

開催スローガン 「子どもたちに確かな未来を！ ～今なすべきことを考える～」

日時 9月30日（金）～10月1日（土）

場所 ハイアットリージェンシー東京

1. オープニングセミナー

国立大学附属学校園で起こっている課題や存在意義についてのパネルディスカッションが行われました。附属はほんとうに必要なのか、という課題について、PTAとしては特に人材の多様性、社会性を学校に活かすこと、熱心な保護者の活動と附属だからこそ特色ある学校の取組みと連携を強化することが話題に上りました。

2. 基調講演

演題 「こころの声が言葉になる」～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～

講師 副島賢和 昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 ホスピタルクラウン

私もそうでしたが、院内学級という言葉は知っている人は多いが、その実情（全国のどこにいくつくらいあって、何人が通っていて、何をしているのか）を知る人はほとんどいません。痛みや苦しさがあ、好きなものを食べたり、家族と過ごしたりできない子どもたちの気持ちを理解することはとても難しい。子どもたちのこころの声を聞いていると、私たちにとっては当たり前のことが、彼らにとっては幸せや喜びであることに気づくことが多いそうです。様々な事情、背景を持つ子どもたちの、感情を大事にすること。良い感情、悪い感情もその背景まで含めて把握して向き合うことを、すべて子どもたちに教えてもらった。言葉にならないことでも、一人ひとりの感情に思いを寄せることで理解できることがあるというお話しが印象的でした。副島先生の子どもたちに寄せる温かく、真剣な気持ち、本気で向き合う姿勢に胸が熱くなりました。

3. 分科会 アクティブラーニングの実践に向けて

アクティブラーニングの目的は手法、効果について。アクティブラーニングは、学びあい、話し合い、教え合い、発表することを通して深く学ぶ方法。実際に財務省が附属学校で多く実施している財政学習プログラムを、私たちも一部体験して理解を深めました。

3. 本講演1

演題 夢をつむぐ子育てとソーシャルインクルージョン

～未来を拓く子どもたちのために、今、私たちがすべきこと～

講師 菊池桃子 女優、戸板女子短期大学客員教授

雇用政策を踏まえた人々のキャリア形成を専門にしている講師の、家族を含めたこれまでの歩みや思いをお話しいただきました。どんな人でも教育を受けることができ、生き生きと働くことのできる社会を実現するために、私たちが何をすべきなのか、ご自身の体験をもとに多様性の大切さを教えていただきました。

4. 本講演2

演題 子どもをやる気にさせる、成長させる、成功への方程式

逆転のメソッド～教師として親として今できること～

講師 原晋 青山学院大学特別研究員 陸上競技部監督

箱根駅伝で青山学院を2年連続総合優勝に導いた原監督の指導方法について、楽しくわかりやすくお話しいただきました。ご自身は挫折が続いた人生ではあったけれど、その時の経験があったからこそ、監督としてその経験を活かして学生を成長させ、優勝に導くことができたということでした。監督就任時の1期生の学生は、4年間箱根に出場することはできなかったが、あの1期生が部の基礎を作ったことを、必ずお話しされるそうです。優勝チームとしての報道では楽しそうな雰囲気が出ていましたが、誰よりも苦しい練習を経験しているから、他にはない楽しさを味わうことができるということ、教えていただきました。コーチングや外部の力を導入して、選手の自主性と成長を引き出す手法は、ビジネスでも参考になるような、素晴らしい講演でした。